

ウスメバル放流種苗作出試験（小泊・下前）

（要 約）

村松里美・鈴木亮

目 的

流れ藻に付随して陸奥湾内へ移動してきたウスメバル稚魚を採集し、放流適サイズまで中間育成し、種苗放流による資源造成の可能性について検討する。

材料と方法

1. ウスメバル稚魚の採集

平成 30 年 5 月 19 日から 6 月 6 日に、陸奥湾内の青森市奥内及び後潟地区のホタテガイ養殖施設 28 箇所
に設置した、海藻（アカモク）を装着したウスメバル稚魚採集用トラップに集まったウスメバル稚魚をタ
モ網で採集した。

2. 放流用種苗の作出

採集したウスメバル稚魚を、平成 30 年 5 月 30 日から当研究所の角型 10 トン水槽 2 面に収容し、飼育を
行った。中間育成後、平成 30 年 10 月 3 日、11 月 6 日に下前漁協及び小泊漁協へ搬送した。

結果と考察

1. ウスメバル稚魚の採集

ウスメバル稚魚を 5 月に 25,000 尾、6 月に 45,000 尾の計 70,000 尾採集し、このうち 50,000 尾を放流
用種苗の作出に用いた。

2. 放流用種苗の作出

放流用種苗の作出結果について表 1 に示した。

中間育成の生残率は 82.8% で、41,400 尾の放流用種苗を作出した。作出した種苗の各 5,700 尾（平均全
長 66.2 mm）を平成 30 年 10 月 3 日に、各 15,000 尾（平均全長 85.0 mm、平均体重 10.3 g）を 11 月 6 日に
下前漁協及び小泊漁協へ運搬した。小泊漁協は、運搬したその日に漁港内へ全数放流した。また、下前漁
協は、11 月 6 日に運搬した 15,000 尾について、陸上水槽 3 基で中間育成を行った後、12 月中旬に下前地
先へ全数放流した。

表 1 放流用種苗の作出結果

| 機関 | 中間育成 開始日 | 収容尾数 (尾) | 収容開始サイズ | | 中間育成 終了日 | 取上げ尾数 (尾) | 取上げサイズ | | 放流場所 |
|------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------------|-------------|-------------|
| | | | 平均全長 (mm) | 平均体重 (g) | | | 平均全長 (mm) | 平均体重 (g) | |
| 小泊漁協 | H30. 5. 30 | 25,000 | 24.1 | - | H30. 10. 3 | 5,700 | 66.2 | - | 小泊漁港 |
| | | | | | H30. 11. 6 | 15,000 | 85.0 | 10.3 | 小泊漁港 |
| 下前漁協 | H30. 5. 30 | 25,000 | 24.1 | - | H30. 10. 3 | 5,700 | 66.2 | - | 下前沖 |
| | | | | | H30. 11. 6 | 15,000 | 85.0 | 10.3 | 下前漁港 下前沖 |

発表誌：小泊・下前ウスメバル放流種苗作出試験報告書。（地独）青森県産業技術センター水産総合研
究所，平成 30 年 12 月。